続・ふるさとこぼれ話

梅の木堰と古代神話

第34回

河川改修が進んだ五行川は、直線的で護岸工事された姿は、あまりにも人工的で風情に欠ける。河川改修以前の五行川は、曲がりくねり、両岸には竹や木々が生い茂り、カッパなどの出没が語られる怪しげな風情を残した川だった。芳志戸手彦子に梅の木堰がある。改修前の梅の木堰は、杭を打った杭堰で、その上流側の大島家の屋敷東側は深い渕をなしていた。

この梅の木堰の渕と大島家には、昔から「蛇侍の話」と呼ばれる不思議な話が伝えられている。あら筋は「大島家に体の弱い若嫁がいた。若嫁の身を案じて夜な夜な男が食べ物を持ってやってきた。やがて若嫁は、身ごもった。若嫁は、その男が怪しいと思い、一計を案じ男に無理難題を頼んだ。そうしたところ男は正体を現した。蛇だったのである」という話である。

この話は、もちろん本当にあった話ではない。一般には「蛇婿入り」の話として伝えられている民話で、原型は、すでに奈良時代に書かれた古事記に「三輪山の話」として記されている。三輪山は奈良盆地の南東部に位置し、標高五百メートルに満たない山である。この山には大物主神が祭られている。三輪山の話の蛇は、大物主神が姿を変えたものであり、本来水神として信仰されてきた神でもある。原始古代より奈良地方の地主神として信仰され、大和朝廷の勢力拡大に伴って全国各地に大物主神を祭る神社が建てられ蛇婿入りの話も広がった。

手彦子の大島家は、歴史を中世まで遡ることのできる旧家である。梅の木堰は、五行川の水利に重要な役割を果した堰であり、大島家はその堰を管理してきた。蛇侍の話は、いかにも由緒ある堰と旧家とにまつわる話である。

▲かつての渕の跡 今は公園化されている

問生涯学習課総合情報館推進係
【☎028 (677) 2525】

野鳥はともだち70

アトリ

スズメ目アトリ科(冬鳥)

(L=16cm
スズメよりやや大きい)
Fringilla montfringilla

アトリの仲間は世界中に分散してみられる。日本では８種類が繁殖するが、夏鳥はいない。

雌雄異色で雄は赤・黄・橙色を持つ種が多く、短く明瞭な声でさえずり、枝上に皿状の巣を架ける。くちばしは円錐形で体に比較して著しく太く、種子をかみ砕いて食べる。頭から肩にかけて灰褐色で、尾羽の付け根部分は白が目立ち、頬部が灰色が強く、喉から胸・脇腹にかけて橙色で下腹部が白く、脇に数点の黒点が並んでいる。雌だけが抱卵して求愛給餌の習性が発達している。群れで飛ぶときにはキョキョキョと鳴き合い、枝に留まるとジューンと鳴く。

昨年の春先に、給部地内の牧草畑の縁で約500羽の群れを観て感動したが、時には１万羽近い集団になると聞いて驚いた。

編集後記

□あけましておめでとうございます。お正月をいかがお過ごしでしょうか？

□昨年も色々な話題、事件や事故がありましたが、皆さんにはどのような一年でしたか？私の場合『忙』の一字。仕事でもプライベートでも余裕がなく、時間に追われる毎日だったような…。ホントに一年間が短く感じられました。年齢的に忙しくなる時期なのかも知れませんが「自分の時間」は常に持っていたいものです。

□私にとって年末年始は心身のメンテナンス期間でもあり、気持ちを新たに一年を計画する期間でもあります。充分に休息を取りこの一年のスタートを切ろうと思っています。

本年もよろしくお願いします。（ヒデ）

■編集　芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032　✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行　芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
■苦情専用フリーダイヤル
0120 (753) 898
芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK
環境保護印刷
この印刷物は、E3PAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA：環境保護印刷推進協議会
http://www.e3pa.com